



女性が輝けば 地域も輝く

司会

出席者

齊藤俊子

山形県白鷹町商工会女性部長

竹中仁美

滋賀県商工会女性部連合会会長

桑野和泉

株式会社玉の湯社長

末武栄子

全国商工会女性部連合会会長

末武 地域における商工会への期待は大きいものがあります。それはとりもなおさず商工会女性部への期待ともいえません。本日は、地域貢献活動の中核として活躍している女性部の代表にお集まりいただき、活動の概況や成果を伺って、これからの地域活性化に向けた女性部活動のあり方を考える一助にしたいと思います。

初めに自己紹介をお願いします。

齊藤 山形県の南部に位置する人口一万六〇〇〇の白鷹町しろたがからまいりました。中央に最上川が流れ、春は古典桜、夏はベニバナ、秋は日本一の築場とされる鮎、冬は隠れそばで有名な美しい住みやすいまちです。白鷹町商工会女性部は総勢八四名で、若い人は二三歳と年齢層が厚く、活力にあふれています。家業は建設業を営んでおります。

竹中 滋賀県商工会女性部連合会の会長をしています。建設業と介護福祉事業を経営しています。所属商工会は中

山道六六番目の宿場として栄えた愛荘町です。今年四月に合併したばかりですが、会員一丸となって各種事業に取り組んでいるところです。

桑野 由布院温泉で玉の湯という旅館をしております。父が商工会に長く関係しておりましたので、私は由布院温泉観光協会の方に携わってまいりまして、現在は観光協会会長です。今、人口一万人ほどの盆地に四〇〇万の人がいらしていただいております。毎日住んでいる人と同じ数の人がいらして、それだけの出会いがありますので、観光協会の仕事は地域の人すべてにかかわっていると考えます。商工会の皆さんとともに、地域を磨き、引き続きお客さまにいらしていただけるまちにしていこうと日々取り組んでおります。

また、観光協会は私より一回り若い人が中心になっておりますが、残念ながら女性が入っていないのです。商工会女性部の皆さんと一緒にやっていただけることで女性の繋がりができていると思いますし、同時に若い人を育てるには女性の役割は大きいとも感じております。

末武 所属は佐渡市の相川町商工会です。全女性連会長の二期目を迎えておりますが、全女性連として女性部の魅力をアップしようと、昨年度からふるさと小包事業を始めました。地域の隠れた美味いもの、珍しいものを全国にPR、全国ネットを生かして消費者に直接お届けしたいと思っています。また、女性の創業、子育て支援を行って女性部を盛り上げる活動についても支援しています。

商工会、青年部、女性部は大変な時代に入っているとありますが、女性が元気にならないと地域は元気になりませんから、知恵を出し合いながら

女性が活躍して、地域、商工会が元気になるようにしていきたいと思っています。

白鷹町商工会女性部には早速ふるさと小包事業に挑戦していただきました。山形県では広域エリアで「ふるさとお弁当づくり」に取り組んでいるそうですので、齋藤さん、その経緯、目指すものについてもお話しください。

地域の美味あつめ弁当から「ふるさと小包」に

齊藤 私どもの地域には美味しいものがたくさんあります。自慢できるこうした美味しいものを全国に発信できないかと考えておりましたので、その時ふるさと小包事業を知りすぐに挑戦したわけです。全女性連で本当にいい事業を考えていただいて感謝しております。

「ふるさとお弁当づくり」は、広域的な事業展開を視野に入れ、特産品の発掘と地元食材を使って取り組むこととし、「地産地消、農家との連携」をキーワードに、食を通しての歴史文化、食の安全性、健康バランスを考えてプロデュースいたしました。



齊藤俊子部長

白鷹町商工会では、白鷹特産の鮎を題材にした「あゆ御膳」を平成十四年に開発、販売までこぎ着けて八年になります。また、川西町では「ひよっこりひよたん弁当」、南陽市ではワインを使用した「健康の宝箱弁当」、童話作家の浜田廣介で名高い高島町では、ラ・フランスを使用した「まほろば弁当」がつくられました。お弁当で地域の人や観光客に、その土地ならではの美味しいものを手軽に食べていただき、地域をより知っていただきつけかけになればと考えたのですが、各商工会とも大変よく売れています。

地域、行政から女性部組織の連携の良さに高い評価を受けておりますし、見学の方も多く訪れています。「あのお弁当を食べてみたい」「もう一度味わいたい」と、多くの人に置賜地方、そして山形県に来ていただきたいと願っています。

相互啓発で事業の高度化と特産品の販路を開く

末武 滋賀県女性連の活動は日頃から素晴らしいと感じております。竹中会長、地域活性化策として「いきいきハイマート・いいものカラクリ交流



竹中仁美会長

会」がよく知られるところですが、事業の内容と狙いをお話しください。

竹中 「いきいきハイマート」は、県青連、県女性連合同で開催している事業で、まちづくりや特産品開発に取り組んでいる青年部、女性部の中からモデルとなる活動事例を発表していただく場となっていて、今年度で七回目を迎えます。発表者は、自分たちが事業を始めた経緯、現状、課題、今後の目標について、パワーポイントや映像で紹介いたします。県内各地域での斬新な活動を具体的に知ることによって、自分たちが取り組んでいる事業をさらに活性化し、発展させるヒントを得ようという思いで行っている報告会であり、例年、七つから八つの地域の活動事例を発表しています。

また、女性部が中心となって取り組んでいる特産品開発の成果を発表するとともに、販路開拓に向けて自分たちがつくってきたものが販売ルートに乗せて通用するかどうかということを皆で意見を出し合いながら、商品の改良や高付加価値化を図る目的で実施している事業が「いいものカラクリ交流会」です。

先の「いきいきハイマート」と同日に開催しており、具体的にはミニ物産展のような形式で新たに開発した特産品の試食とアンケートによる聞き取り、地域資源を活用した商品ができるまでの工程（カラクリ）について紹介してもらっています。商工業に携わる者同士が本当に売れる商品にするために皆、自分のことのように一生懸命になって批評しながら交流を図っています。

「いきいきハイマート」では、一つの商工会の取り組みだけでなく、二つ以上の地域が連携して実



桑野和泉社長

施する事業の事例も発表してもらっていますので、合併地域においても今後の活動のヒントにしようと皆さん熱心に参加していただいております、毎回会場は四〇〇人強の部員で熱気に包まれます。

併設して「情報ネット交流会」も開催しています。女性部、青年部が発行する会報やホームページを専門家に講評していただき、優れた会報の表彰を行うなどして、広報活動の向上にも努めています。

昼間の観光でビジネスチャンスを生む

末武 桑野さんは由布院の魅力づくりにとってもユニークな方法で取り組んでいると聞いております。どんな考えでなさっているのか、取り組みのいくつかをご紹介ください。

桑野 私は子供の頃、大人たちが地域の魅力を時間をかけて磨き、行ってみたいと思わせる温泉地にしようとする姿をずっと見てきました。「由布院には隠れた魅力があるんだよ。あなたたちのお父さんがやっていることは決して間違いではないんだよ」というお越しになった方、いわば外の応援団の声が私にとって大きかったです。観光はお客

さんにいろんな出会いをつくっていく、その出会いの場がいくつあるかだと思っております。

由布院は映画祭、音楽祭、食のイベントを三年以上続けています。それも身の丈に合ったものにしていくと、誰かに頼んでしまうと特性が出ないので、自分たちでやれる範囲で、その代わりここにしかない内容でやっています。映画祭は日本映画として、映画を見るだけでなく、パーティーもあって、ゲストや、いらした皆さんと地域の人とのつながりがあります。それが由布院の魅力になっていくんだと感じています。そうしたことが「行ってみたい」「イベントに参加してみたい」「由布院のものを買ってみたい」という応援団をつくっていくんだと思います。由布院は外の人の力をお借りしています。何か問題が起こった時、外の人にアドバイスをいただき、由布院にしかないもの、由布院しかないおもてなしをするようにしています。

また、由布院の特徴は、どこでも温泉が出るため、温泉街でなくて盆地の中に小さな旅館が一〇〇軒も点在していることです。そして、各旅館とも「自分の旅館以外もお使いください」と開いた旅館にしています。それによって、昼間の観光が生まれています。お昼どこかで食べよう、お茶しよう、買い物しよう、何か見たい、何か体験したいということ、いろんなお店が発生していきまます。旅館がお客さん自身の中に閉じ込めるのではなく、オープンにすることで、いろんな商売が生まれ、それがまた、まちの魅力になっていく。そうしたことを三〇年やってきたおかげで、由布院は歩いて楽しいまちになって、ビジネスチャン

スが生まれています。

六年前に交通社会実験というのをいたしました。ただ歩いてもらうだけなのですが、通常まちに六〇〇〇円しか落とさない人が八〇〇〇円も遣っていただけました。そうしたことで、皆が豊かになっていくと思っております。

末武 地元の農産物も当然活用しているのでしょうか。

桑野 由布院は農村です。農業があつて温泉地は生きていけるのです。農を生かすため、いらしていただいた方に由布院のものを食べていただく。ネットを使えば世界中のものが手に入ります。だからこそ、私たちが勝負できるのは、その土地の旬のものを技術で持つて、料理人はじめさまざまな人が由布院にしかできないものをつくりだしてお出ししなければなりません。いらした方を大事にするため、料理人も情報を共有してしっかりと勉強していかなくてはならないと思っています。小さなまちは、何を売るかを大切にしていけば、生き残れると思っております。どのまちでもいろいろ努力しているでしょう。互いに磨き合うことが大事だと考えます。

女性部の特産品活動が地域づくりにつながる

末武 皆さんの取り組みの結果として、どのような成果がありましたか。

齊藤 女性部員が積極的に特産品を持ち寄ること、ふるさと小包便として白鷹の魅力を丸ごと全国に向けてPRできる内容のものができました。一丸となって取り組んだことにより、女性部の結

束力が一層強まり、新たな白鷹町の良さを再発見できたことは、今後の女性部活動を行ううえで、とても大きな成果と感しております。

ふるさと小包事業では、地域の美味しいものを全国にPRできたうえ、地域の資源を発掘したり磨くことで、わがまちを知ってもらい「鮎まつり」や「紅花まつり」などの代表的なイベントにも来ていただけるきっかけとなりました。

竹中 一番の成果は、どの地域においても新たな事業にチャレンジしようとする気風が生まれたことです。部員数が減少する中で、事業規模としては小さく、県内のどこかで常に新たな事業が生まれるのは、ハイマート事業による効果が大さく考えています。

また、女性部の特産品開発グループから独立し、今では法人化されて販売されている商品や、自分で店舗を構えて製造販売されている商品の多くがカラクリ交流会を活用してきました。最近では、近江商人がふるまった御膳を再現させたケースもありますし、不要になった貸衣装のウエディングドレスを再利用して新たな商品を開発する研究、琵琶湖の周囲に群生するヨシを粉末化してお菓子



末武栄子会長

などに配合したり、琵琶湖で駆除している外来魚を出汁だしに利用する研究も進んでいます。

いきいきハイマート事業は地域間の交流を深め、近隣地域の人をまとめる作用があるため、合併後にもスムーズに活動できると感じています。特産品開発事業は、モノをつくり、売ることは大切ですが、それ以上に商品ができ上がるまでの過程が大事で、その喜びがまちの振興、地域づくりに繋がっているのだと思います。

末武 桑野さんが一番力を入れていることはどういうことでしょうか。また、お気づきになったことでアドバイスをいただければ幸いです。

桑野 斬新なアイデアを持つ若い人にステージをつくってあげることと考えてきました。組織の中で若い人が潰されないように仲間をつくって守ろうよといっています。若い人が協会活動で地域につながるなど表舞台に立つと、六、七〇代のこれまで主体となってきた人もパワーアップして元気になるのです。

ただ、今日、お話を伺いながら、地域の特産品商品にしていくことに私たちのまちはまだまだ欠けているんじゃないかと感じました。アドバイスをいただいたのは私の方です。女性部の目線には暮らしがあります。女性の目線のないものは地域に繋がらないと思いますので、お聞きした皆さんの活動をもとに私も地域内の結び目をつくっていきなさいと思います。

**女性が誇りを持ち、
語る力を持つことが一番**

末武 商工会女性部のあり方について皆さんはど

う感じていらっしゃいますか。

齊藤 女性部の地域に根差した活動は評価されているので、これからは女性部の県全体のネットワークづくりに向けての取り組みが大事であると思います。それには、各地域で実施している環境事業やボランティア事業、子育て支援事業などの特色ある活動を全国的に取り組み、商工会女性部の活動も地域から発信し全国へ向けて大きく発展していく必要があると思います。

竹中 女性部も地域の一人。女性部が元気にならないと、地域も元気になりませんから、誇りを持って前向きに活動したいと思っています。多くの人に県内に足を運んでいただけるよう、今どこでどんなイベント、行事が行われているかを一覧表にして、元気な女性部をアピールすることに取り組みたいと思っています。

桑野 どのまちにも商工会があることは素晴らしいことです。女性部は、暮らしを一番見ている人が集うという強みを生かして、もともとの情報発信して地域を元気にしていただきたいと思えます。地域の中で女性が楽しみ、誇りを持ち、何か語れる力を持つことが一番と思いますので、私も一緒になって自分のまちをアピールしていきたいです。

末武 全国の女性部員にひとことお願いします。

齊藤 失敗を恐れず、前を向いて生き生きと、笑顔とパワーで地域をリードする商工会女性部となるよう進んでいきたいものです。

竹中 女性部のネットワークを繋ぎながら、一致団結し、年一回、全県的に地域、行政にアピールできる事業を展開しなければいけないと思っています。